

- 1 実施日時 令和8年4月23日（木）及び5月1日（金）
- 2 対象 3年生
- 3 調査事項 教科調査（国語・数学・英語）、質問紙調査
- 4 結果分析

（1）学力調査の結果から

- （国語）・平均正答率は、全国平均や県平均を少し上回っている
・思考力、判断力、表現力の中では、「書くこと」は全国・県の平均より高い
課題→「文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにできる」こと
- （数学）・平均正答率は、全国平均や県平均を上回っている
・4つの領域の中で、「数と式」及び「関数」が全国・県の平均をかなり上回っている
課題→「数学的な表現を用いて説明する」こと
- （英語）・平均正答数集計値は、全国・県の平均と同等レベルである
・平均IRTスコア（基準集団の平均値そのもの）は、全国・県の平均を上回っている
課題→「話すこと」において、特に即興で返答すること

（2）質問紙調査の結果から

- 平日・休日とも家庭学習に取り組んでいる生徒が多く、下校後の学習時間は、全国・県の平均よりやや長い。
- 「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」の質問に、「あてはまる」と答えた生徒の割合が全国・県の平均と比べて高い。
- 「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談」できると答えた生徒の割合が、全国・県の平均を大きく上回っている。
- 「学校に行くのは楽しい」と答えた生徒は、全国・県の平均を大きく上回っている。
- 「人が困っているときは、進んで助けている」と思うと答えた生徒は、全国・県の平均を大きく上回っている。
- 「あなたの学級では、人と違う意見を言っても否定されないと思う」と答えた生徒は、全国・県の平均を大きく上回っている。
- 「先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれている」と答えた生徒は、全国・県の平均を大きく上回っている。
- 「普段の生活の中で、幸せな気持ちになることがよくある」と答えた生徒は、全国・県の平均を大きく上回っている。
- 「国語の勉強は得意だ」と答えた生徒の割合は、全国・県の平均より高い。
- 「授業や学校生活では友達や周りの人の考えを大切にしてお互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいる」と答えた生徒は、全国・県の平均より大きく上回っている。
- 「数学の勉強は好き」と答えた生徒の割合は、全国・県の平均より高い。
- △「将来の夢や目標を持っていますか」が、全国・県の平均を下回っている。
- △「分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することが出来ている」と答えた生徒は、県平均を上回っているが、全国平均を下回っている。
- △「人の役に立つ人間になりたい」と答えた生徒は、全国・県の平均を下回っている。

5 まとめ

家庭で、学習に取り組んでいる生徒が多く、全国・県の平均と比べてよく勉強している傾向が見られた。「学校に行くのは楽しい」「友達関係に満足している」と答えた生徒は、全国・県の平均を大きく上回っていることがわかったが、普段の生活の中の幸福感には課題があり、学校として継続的に取り組んでいきたい。また、今回の学力調査では、どの教科も学力状況で全国・県の平均を上回っていたが、解答する時間が足りないと感じた生徒が多かったことも分かった。さらに、各教科における発表・話し合いなどの活動を増やすなどの工夫を継続し、協同的探究学習の理念に基づいた授業改善をいっそう進め、主体的・対話的で深い学びの実現をはかることが必要である。